

No.70

すくらむ

2008.1 発行



福井県特別支援教育センターは、県立病院関連四機関の4階にあります。

P2

地域の園や学校を支援するために

発達障害児支援推進事業を中心に、福井県の特別支援教育について報告します。

P3

研修講座受講者が2,000名に迫る!!

全17講座(2講座は特設)のうち、参加者が300名を超える講座もありました。

P4

特別支援学校の先生のがんばり 地域支援専門研修 第3・4回研修会

地域支援のスペシャリストになるために特別支援学校から参加されています。

P5

小・中学校の先生の挑戦 特別支援教育コーディネーター養成研修 第4回研修会

中間報告会では、各学校から様々な取り組みが紹介されました。

P6

シリーズ「学校・学級紹介」

小浜市立今富小学校「なかよし学級」からの発信です。

研究発表会のご案内

多数のご参加を!

日時：平成20年2月14日(木)
9:00～受付 9:30～16:00

会場：福井県立大学 交流センター

詳しくは各学校・機関に配付の実施要項をご覧ください。

センター業務から

激増する相談や指導!!

当センターでは、特別な教育的ニーズのある子どもを対象に、相談や指導を行っています。

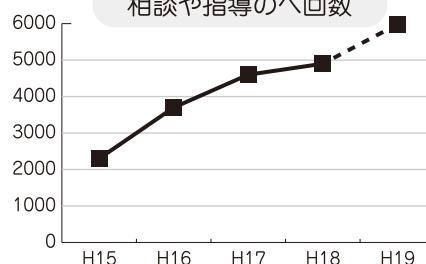
中でも幼稚園や学校に出向いての相談や来所による相談は年々増加しています。本年度は、すでに相談受理数が963件(11月末現在)あり、年度末には相談・指導のべ回数が6,000回を超える勢いです。

相談回数増加の要因としては、各学校でのガイダンス実施や特別支援教育コーディネーター養成研修がきっかけとなり、各学校からの相談数が増えたことが考えられます。

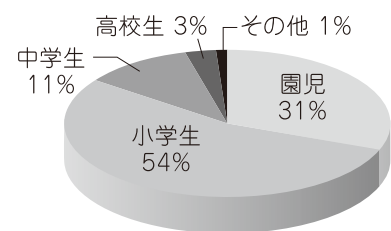
相談や指導の内訳では、小学生が54%と全体の半分以上を占めており、園児31%、中学生11%と続いています。また、最近では高等学校からの相談も増えてきました。



相談や指導のべ回数



相談受理数963件の内訳



地域の園や学校を 支援するために

発達障害児支援推進事業

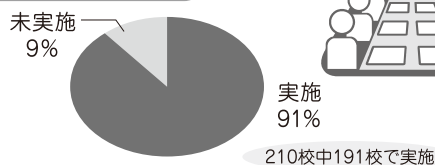
2年目を迎えた県単独事業「発達障害児支援推進事業」では、特別支援教育センターと嶺南教育事務所特別支援教育課、特別支援学校が協力して、ガイダンス、公開講座、巡回相談に取り組んでいます。今回は、その成果を年度途中ではありますがご紹介します。また、本年度新しく始まった高等学校への取り組みについても併せてご紹介します。

100%をめざしてがんばっています！

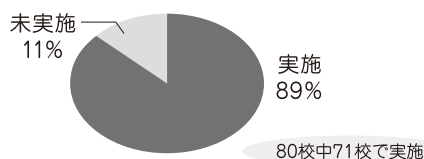
(ガイダンス H18～H19.11)

本年度は、特別支援学校が高等学校・幼稚園を中心に担当し、当センターと嶺南教育事務所特別支援教育課が小・中学校を中心に担当しています。

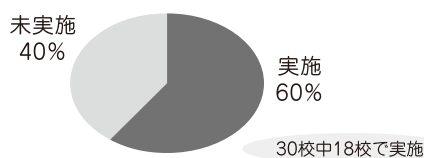
小学校ガイダンス実施状況



中学校ガイダンス実施状況



高等学校ガイダンス実施状況



この他、当センターには、地域で開催される特別支援教育コーディネーターや支援員に対する研修、保護者を対象とした研修の依頼等が増えてきています。

魅力ある公開講座が開かれています！

各特別支援学校では、「読み書きに課題のある子への指導」「通常学級でできる支援を考える」「心と身体についての研修会」等の内容で、11月末現在で**18回**（受講者数は**のべ1,256名**）開催されています。各学校の特徴を活かした内容で、毎回多くの参加者があり、関心の高さがうかがわれます。

*今後、開催されるものもありますので、各学校からの案内をご覧ください。

積極的に巡回相談に応じています！

各特別支援学校では、県内全ての幼稚園、小学校・中学校、高等学校に対して巡回相談を実施しています。発達障害のある児童生徒に関する相談も年々増加し、11月末現在相談受理数は**1,017件**、のべ相談回数は**4,548回**です（文書相談・電話相談を含む）。

当センターへの相談も増加しており、地域からの求めは多くなっています。

専門性の向上をめざす センター的機能推進研究協議会

特別支援学校のコーディネーターが集まり、年7回研究協議を行っています。本年度は、高等学校への支援に関する協議会や自主的な研修会が行われました。各学校の特性を活かしながら、特別な教育的ニーズに応えるために「特別支援教育コーディネーター」としての専門性の向上をめざしています。

高等学校での新しい取り組みも始まりました

◆高等学校特別支援教育コーディネーター研修

発達障害のある生徒が高等学校に数パーセント在籍しています。その対応のために、県内全ての高等学校を対象にした研修会が始まりました。研修には各校から教育相談・生徒指導・進路指導の担当者が参加しました。今後、高等学校に在籍する発達障害等のある生徒を支援するために、その中心的な役割を果たす特別支援教育コーディネーターが指名される等、校内体制が徐々に整備されつつあります。

第1回

(7月3日)

講師 福井県立大学学術教養センター
准教授 清水 聡氏
内容「高等学校における特別支援教育」

第2回

(8月20日)

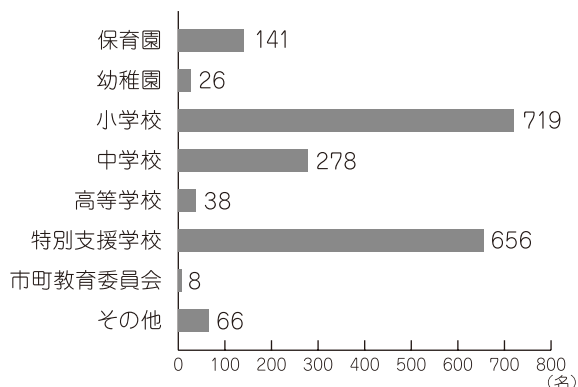
講師 星槎国際高等学校 教諭
星槎教育研究所 主任研究員 安部 雅昭氏 他
内容「高等学校での進路指導に関する支援」他

—研修講座の報告—

研修講座受講者が2,000名に迫る!!

本年度は、専門性をさらに高める特設2講座を含め、17講座を開設しました。県内各地から、昨年度の受講者数1,341名を大幅に上回る1,932名の方が参加されました。

所属別受講者数

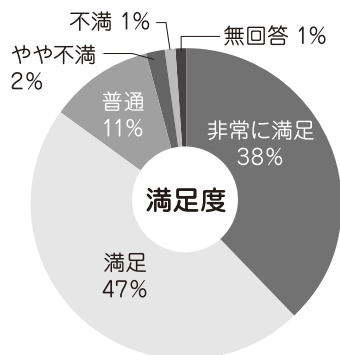


No.12 (2007年8月7日) 特別支援学級のエデュケーションとその実際
—楽しい授業・楽しい学級経営—での質疑応答の様子

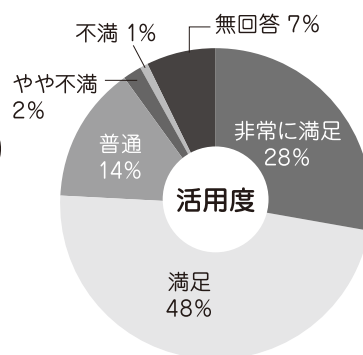
本年度は、特に、発達障害や通常学級での支援に視点を当てた講座を数多く開設したこともあり、小学校や中学校の先生方が多く参加されました。ある講座では、夏季休業中の校内研修に位置づけてほぼ全員の先生が受講された学校もありました。

アンケート結果から

研修講座受講後のアンケートの中で、講座の内容に対する“満足度”と、講座の内容を現場で活かせるかどうかの“活用度”についてうかがったところ、以下のような結果になりました。



『非常に満足』『満足』との回答が多く、全体の約80%を占めています。



特に受講者が多かったのは…

No.11

通常学級における気がかりな子への支援 —教室でできる支援のアイデア—

講師：杉並区立中瀬中学校 月森 久江 先生

345名もの参加がありました。発達障害のある子の疑似体験やビデオによる事例の紹介など、通常学級でも活かせる具体的な支援の紹介がありました。

講座活用度が高かったのは…

No.9

特別支援教育における教材開発 —生徒一人一人に応じた作業学習(紙工)—

講師：福井南養護学校 手塚 典子 先生ほか

紙袋、ストラップ、金封、メモ帳、封筒の製作を参加者が体験しました。それぞれの実習が「即、活用できる」と好評でした。

アンケートの中には、来年度の研修講座に関して、「県外の著名な方の講義を受けたい」というような要望も多く寄せられていました。それらをもとに、また新たな研修講座を展開していきたいと思っています。ご期待ください。

特別支援学校の先生のがんばり

発達段階に応じた支援をすることが大切ですね。

各特別支援学校の持ち味が活かされる地域支援を展開していきましょう。

—地域支援専門研修 第3・4回研修会—

研修者が、所属校における地域支援に関する課題を設定して研修計画を作成し、取り組んでいます。これまでに研究協議を4回実施し、福井大学教授の松木先生よりご助言をいただきながら振り返りと評価を行ってきました。

今回は、第3回研修会（中間報告：9月）、第4回研修会（最終報告：12月）で報告された研修者の研究内容についてお知らせします。



第3回研修会の様子



清水養護学校
東 敬雄 先生

発達支援教室の実践から 本校の地域支援を考える

就学前の幼児を対象に発達支援教室を土曜日に年間5回開催しています。個別指導や小集団指導を行い、保護者に参観していただいた後に教育相談を行っています。



盲学校
山下 敬子 先生

サテライト教室を拠点とした 嶺南地区での支援体制作りについて

本年度からサテライト教室が小浜と敦賀に設置され、毎月1回開催されています。視覚障害のある子どもに対して、訪問による教育相談を実施してきました。



福井東養護学校
月見分校
徳丸 郁子 先生

病弱養護学校と地域の 小中等高等学校間の移行支援について

本校は、小・中・高等学校から転入してくるケースが多く、移行支援が重要です。小・中・高等学校との連携方法について研究しています。



福井南養護学校
岸野 美佳 先生

特別支援教育コーディネーター についての校内理解と啓発

地域支援を行っていくためには、校内の教職員の共通理解と啓発が大切です。コーディネーターが担う役割と校内の理解啓発について研究しています。



南越養護学校
栢田 聖子 先生

地域の中学校の特別支援学級 担任との連携について

地域の中学校との交流学习等を通して、特別支援学校がどのようにして情報提供や地域のネットワークづくりを行っているかについて研究しています。



福井東養護学校
光里 裕子 先生

高等学校における特別支援教育と 病弱養護学校のありかた

ガイダンスを行う中で、高等学校における特別支援教育に対する教職員の意識について調査し、現状と課題について整理しました。



福井養護学校
勝山 美央 先生

保育園・幼稚園へ よりよい支援をするためのスキルアップ を目指し、実践から学んだこと

保育士や保護者の悩みに寄り添うことや、主体的に子どもを支援できるように園をサポートしていくことが大切であると感じています。



嶺南西養護学校
武内 清恵 先生

保育園と小学校における 気がかりな子への 支援方法の検討と体制作り

園では、支援の方法や保護者との関係づくりに、小学校では、教材の工夫や活用、校内支援体制づくりに課題があります。それぞれの課題に取り組みました。



嶺北養護学校
前田 雅美 先生

様々なつまづきを見せる子どもの 支援について

園や学校での相談に応じていく中で、発達検査、行動観察、聴取等のアセスメントを通して子どもの行動を理解する姿勢を大切にしたいと思っています。

今後の予定

第5回 2月14日 研究発表会で研究成果をポスター発表します。

第6回 2～3月 研修者が所属する学校において研究の成果を報告し、地域支援について職員の共通理解を図ります。

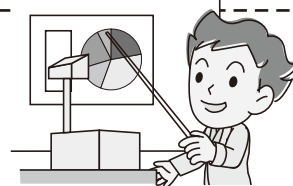
小・中学校の先生の挑戦

一特別支援教育コーディネーター養成研修

第4回研修会一

10月3～4日にかけて坂井・奥越・吉田・福井・丹南・嶺南の地区別に行いました。

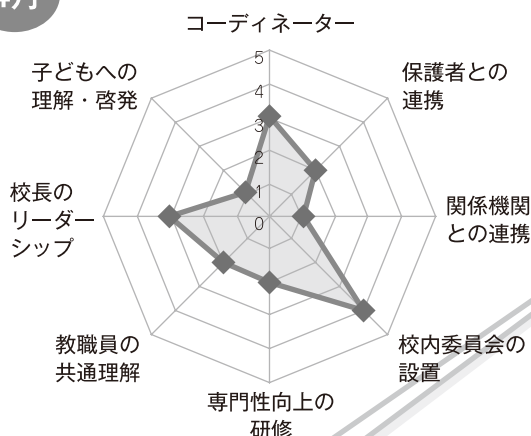
研修者は、自校の校内支援体制状況をレーダーチャートで分析しています。ある学校の校内支援体制は、ご覧のようにとても充実してきました。取り組みの一部をご紹介します。



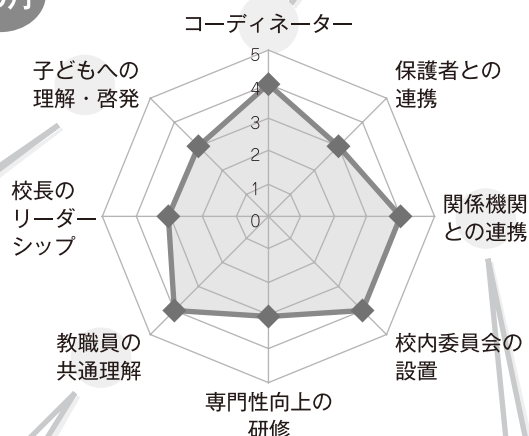
・校長、教頭、教務、特別支援学級担任、相談担当、養護教諭、コーディネーターで校内支援の**役割分担**をしています。

・**個別学習支援**を始めました。本校の教員、市教育補助員、市訪問指導員、心のパートナーなどが指導を担当しています。

4月



10月



・PTA総会や入学式で、校長から特別支援教育について保護者に説明しています。

・**障害の理解を図る集会や授業**を行いました。授業の内容を学級通信で保護者にも知らせています。

・LDの疑似体験をして、授業中に困っている子の気持ちがわかりました。

・**カウンセリングの研修**では、保護者懇談で配慮することがらを知りました。

・研修講座で紹介された**参考図書**を**購入**し、いつでも閲覧できるように職員室に置いています。

・特別支援教育センターに依頼して**WISC-Ⅲの検査**をしてもらいました。検査の結果を聞いて、今後の支援を保護者と一緒に考えています。

・特別支援学校に**個別の支援計画や指導計画**の作成を依頼しました。長期目標と短期目標を意識しながら子どもにかかわっています。

第4回研修会にて 助言者のコメントより

福井大学教育地域科学部教授

松本 健一 氏
(福井地区)

福井県立大学准教授

清水 聡 氏
(嶺南地区)

福井大学教育地域科学部教授

三橋 美典 氏
(坂井・奥越・吉田地区)

梅花女子大学准教授

後藤 智子 氏
(丹南地区)

ここがポイント!



校内で

・子どもへの支援と同じくらい、**同僚教師への支援**も大切。

・その子を取り巻く人(教師、支援員など)の**得意なところ**を有効に活用しよう。

・学校だよりなどで**特別支援教育の啓発**をしよう。

支援会議

・支援会議の目的は子どもの**困っている状態を軽く**すること。

・子どもの障害を保護者に初めて伝える時は「その子が困っている」ということを伝え、**一緒に支援を考えよう**というスタンスで話そう。

子どもへ

・学習面、対人面などの問題は、発達障害の有無に限らず、**すべての子どもに共通した問題**。

・傷ついた子に「自分の未熟さや失敗が許されているな」と思われるように**柔らかく**接しよう。

・子どもとの**日々のかかわり**を詳しく記録し、それをデータベース化しよう。

・かかわり手は、**子どもの生涯発達を見据えて**かかわろう。

つなぎ

・園→小学校などの移行支援では書類の情報伝達だけではなく、**その子の様子**を直接見に行こう。

・支援を**幼→小→中→高**とつなぐことはコーディネーターの大事な仕事の一つ。

小浜市立 今富小学校 なかよし学級



本校の特別支援学級「なかよし」の在籍児童は2名で、個に応じた取り組みを行っています。また、「なかよし」での学習だけでなく、交流学級での授業や、全校行事、市の特別支援学級合同の行事などに積極的に参加することにより、集団での学習の楽しさを味わい、また集団での学習のルールや、コミュニケーションの力をつけていってほしいと願っています。特に、学校行事や市の特別支援学級合同の行事に向けては、子どもが大きく成長できる機会ととらえ、事前学習等をしっかりと行い、また家庭の協力も得ながら、課題を一つずつクリアしていけるように取り組んでいます。

「なかよし」の教室から見える場所に「なかよし畑」があります。本年度の生活単元学習は、「大きくなあれ! なかよし畑の野菜たち」という大単元を組み、この畑を中心に活動を展開しています。

今回は、その活動の中から紹介いたします。

野菜の苗や種は、児童と一緒に本を見ながら、何を栽培したいかを決め、近くのホームセンターまで買いに行きました。



手持ちの硬貨の中からどの硬貨を、どれだけ払えばいいのか、悩みながらも一生懸命考える姿が見られます。買い物に行く前にも、算数でお金や計算の学習をしたので、買い物に行く前には、「大丈夫! 一人できる」と自信满满だったのですが、実際に買い物をしてみると、思っていた以上に難しかったようです。「難しかった」「算数で勉強しないとね」と、その後の算数の学習の意欲付けにもなりました。

「畑に看板があったらいいのにね」という児童の意見から、看板作りも行いました。初めはぎこちなかったのぎざりや金づちの使い方も、回を重ねるごとに上手になってきています。



野菜の世話や観察も根気強く行っています。観察日記は継続することで、書く力がついてきました。



最後は、畑で採れた野菜を使っでの調理と収穫祭です。ジャガイモではポテトチップスを、かぼちゃではプリンを作りました。どちらも、児童が「収穫できたら絶対に作りたい!」と希望していたものです。レシピ作り、材料の買出し、調理、まとめなど、どれも意欲的に行っていました。1学期末に行った「収穫祭」では、招待状を作り、教室を飾り付け、作ったお菓子で、校長先生、養護教諭をもてなしました。また、その時に、国語の学習の発表も行いました。2学期は、収穫したじゃがいも、にんじんを使ってカレーを作り、教職員全員を対象に「なかよしレストラン」を開きました。



受賞された皆様

(平成19年12月末現在 敬称略)

福井県教育委員会教育功労賞

大塚 富夫 前武生西小学校長

全日本特別支援教育連盟 功労賞

丹後 清明 成器南小学校長

福井県特別支援教育連盟 功労賞

〈永年勤続30年〉

下野 早苗 吉野小学校 教諭
島崎 順子 万葉中学校 教諭
永田 真弓 福井南養護学校 教諭

〈永年勤続20年〉

重神 加代子 栗野小学校 教諭
齋藤 慶太 足羽第一中学校 教諭
川端 澄子 和泉小学校 教諭

江守奨学会教育奨励賞

〈個人の部〉

長谷川 直子 嶺南東養護学校 教諭
奥田 悟志 盲学校 教諭

おめでとうございます



編集後記

新しいセンターでの業務がスタートして、まもなく1年になります。建物だけではなく、地域支援専門研修や特設の研修講座など、事業においてもリニューアルしてまいりました。

当センターでは「すくらむ」についてみなさんのご意見、ご感想をお待ちしております。

センターだより すくらむ 第70号

発行日 平成20年1月15日

発行所 福井県特別支援教育センター

所在地 〒910-0846 福井市四ツ井2丁目8-1

TEL (0776) 53-6574 FAX (0776) 52-6272

E-mail info@fukuisec.jp

URL <http://www.fukuisec.jp>

福井県教育庁嶺南教育事務所特別支援教育課

〒917-0241 小浜市遠敷2丁目205

TEL (0770) 56-1095 FAX (0770) 56-1391

敦賀駐在 TEL・FAX (0770) 24-0421

印刷所 創文堂印刷株式会社